

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

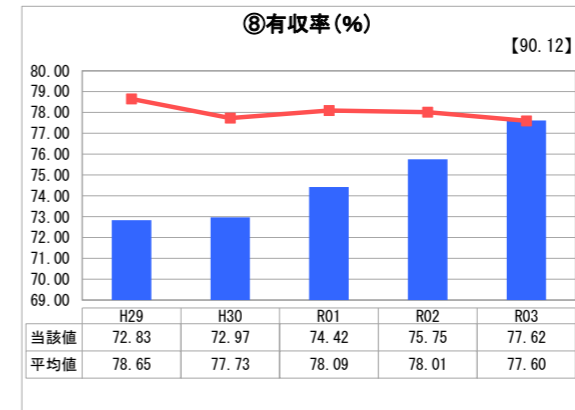
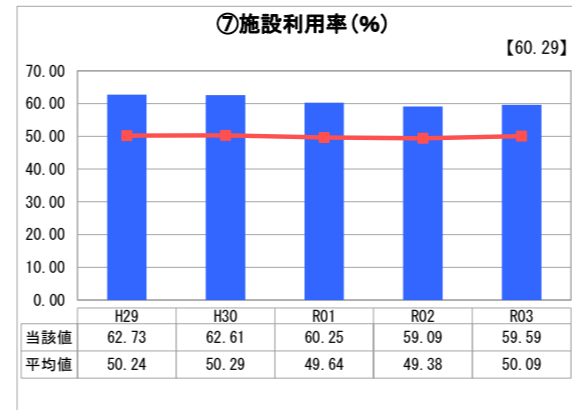
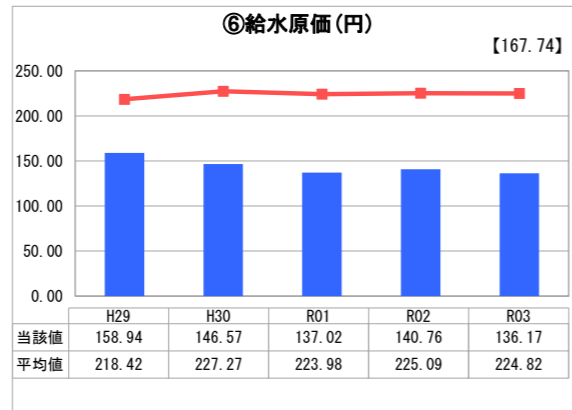
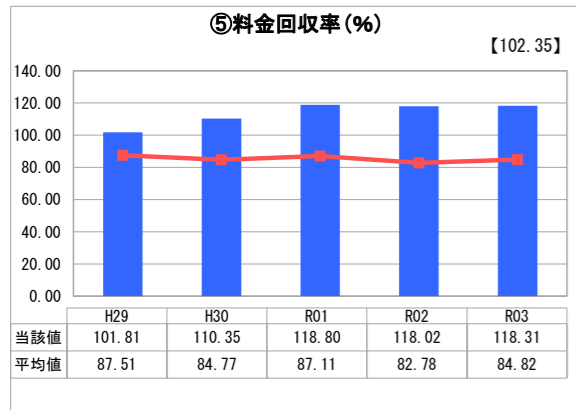
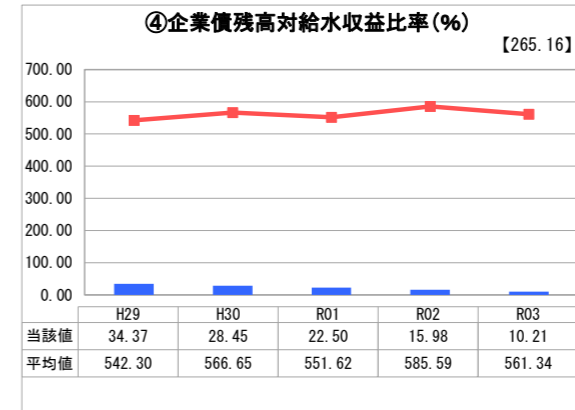
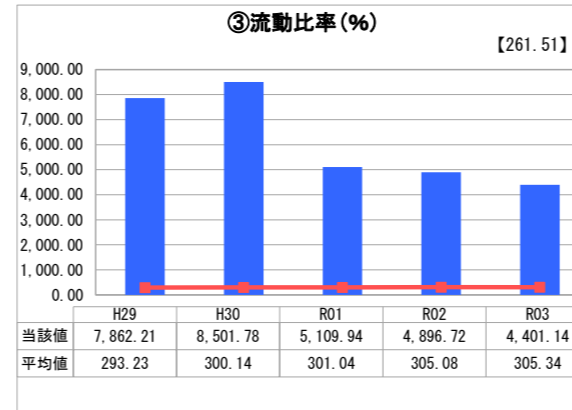
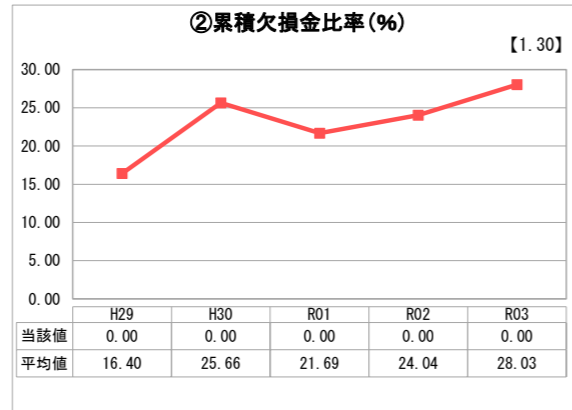
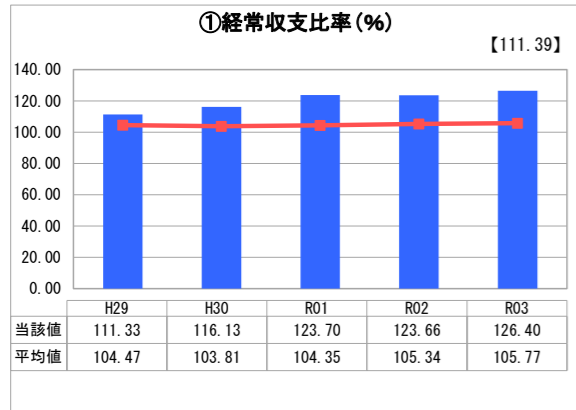
長野県 原村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	98.98	99.60	2,640	

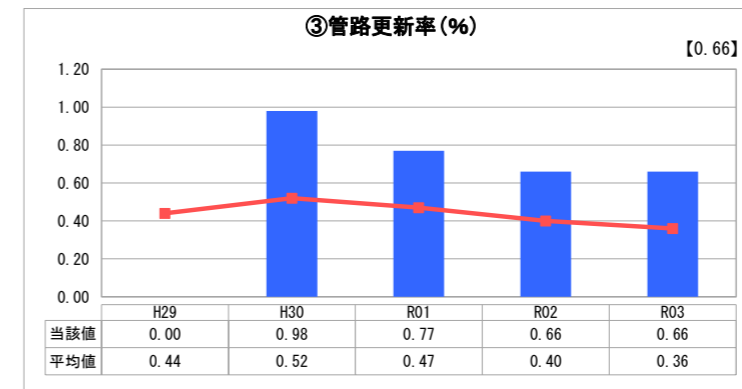
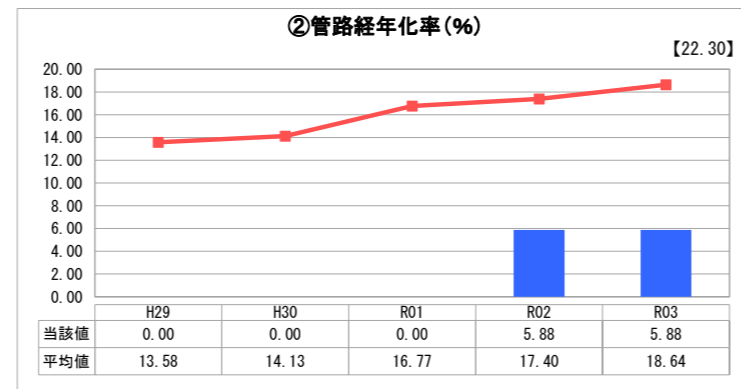
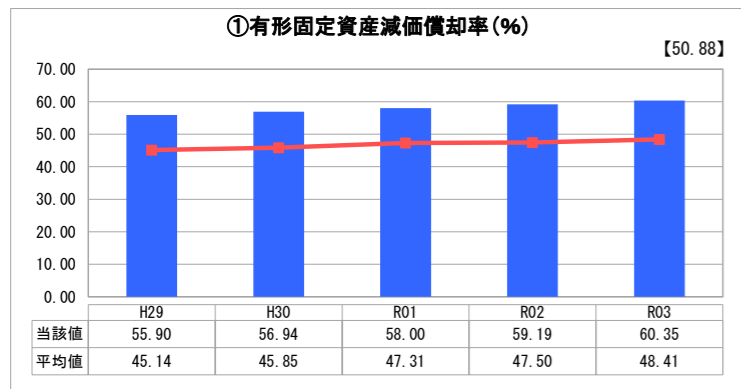
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,041	43.26	185.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,983	34.86	229.00

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和3年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、③ 流動比率及び⑤ 料金回収率については100%を上回っており、② 累積欠損金もないことから水道事業の財政状況は健全な水準にあるといえます。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率については、近年は新たな企業債の借入れを行っていないことから、企業債未償還金が順調に減少しているといえます。  
 ⑧ 有収率については、5年連続で改善傾向にあります。主な取り組みとして、検針後に漏水が疑われる水栓の個別訪問を行い、減免制度に期限を設けることで、漏水の早期発見・修理工を促しています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、全国平均値を上回っており、他事業体と比べて施設の老朽化が進んでいます。  
 また、管路の状況については② 管路経年化率と③ 管路更新率から分かるように、平均値より好水準ではあるものの、更新が老朽化に追いついていない状況にあります。  
 今後は、水源・配水池等の大型施設・管路の更新・修繕費用が増加が見込まれるため、将来の見通しを立て、設備投資計画を策定する必要があります。

### 全体総括

現在の財政状況は健全な水準にあるといえますが、節水意識の高まりや人口減少による料金収入の減少が見込まれる一方で、施設・管路の老朽化による更新・修繕費用の増加が懸念されます。  
 今後の給水人口や水需要の動向を注視しながら、健全経営が継続できるような水道料金体系の検討を行い、設備投資計画により施設・管路の計画的な更新・修繕を行う必要があります。